

去る3月17日、東大和市災害ボランティアセンター協議会を実施しました。当日は、112名の方に平成30年度第1回定例会を中心として、市内各所に被災者宅や避難所に見立てた会場を用意し、災害時の被災者支援とボランティア活動について学びました。ご参加、ご協力いただきました皆様にお礼申し上げ、当日の様子をご報告いたします。

日時 4月16日(月) 19:00～  
会場 東大和市社会福祉協議会会議室

1. 目録 平成30年3月17日(土) 8:30～16:40  
開会

- 【午前の部】…被災者役からの相談受付、訪問調査等
- 【午後の部】…ボランティア役受付、オリエンテーション・マッチング・送り出し、市内各所へ移動しボランティア体験、反省・謝辞等

1. あいさつ

2. 自己紹介

2. 場所…ハミングホール小ホール、エントランス、事務室、市内各所

3. 3. 検討事項【全体】

- 1) 設置・運営訓練の反省と来年度に向けての検討
  - 当日の反省より 14名
  - アンケート結果より 73名
  - 出席者より他の関係者 6名
- 2) 30年度事業計画について 112名

※主な所属団体：東大和青年会議所、南街・しが丘地域防災協議会、湖畔地区自治会、向原地区自治会、狭山地区自治会、東大和障害福祉ネットワーク、高齢者

4. 報告事項

- 1) 防災フェスタについて 足湯プロジェクト、その他一般、関係者

5. その他

【ボランティア参加者詳細】

<73名内訳>…在住地で集計(昨年度は所属別)

南街	19名
しが丘	6名
湖畔	8名
向原(都営)	15名
向原(都営以外)	3名
狭山	
高木	
新原	

閉会

次回 7月23日(月) 19:00～  
会場 社会福祉協議会会議室



## 平成29年度災害ボランティアセンター設置・運営訓練の報告

去る3月17日(土)災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施しました。当日は、112名の方にご参加いただき、ハミングホールを中心として、市内各所に被災者宅や避難所に見立てた会場を用意し、災害時の被災者支援とボランティア活動について学びました。ご参加、ご協力いただきました皆様にお礼申し上げ、当日の様子をご報告いたします。

### 1. 日時 平成30年3月17日(土) 8:30~16:40

【午前の部】…被災者役からの相談受付、訪問調査等

【午後の部】…ボランティア役受付、説明、  
オリエンテーション・マッチング・送り出し  
市内各所へ移動しボランティア体験、  
反省・講評等



### 2. 場所 ハミングホール小ホール、エントランス、事務室、市内各所

### 3. 参加 【全体】

1) スタッフ役(視察者含む)	19名
2) 被災者役	14名
3) ボランティア役	73名
4) その他の関係者	6名
合計	112名

※主な所属団体：東大和青年会議所、南街・桜が丘地域防災協議会、湖畔地区自治会、向原地区自治会、狭山地区自治会、東大和障害福祉ネットワーク、高齢者ほっと支援センター、登録ボランティア、民生・児童委員、東大和市役所、市外社協、東京足湯プロジェクト、その他一般、関係者

#### 【ボランティア参加者詳細】

<73名内訳>※在住地で集計(昨年度は所属別)

南街	19名
桜が丘	6名
湖畔	8名
向原(都営)	15名
向原(都営以外)	3名
狭山	4名
高木	6名
新堀	2名
中央	2名
上北台	1名
芋窪	1名
関係者(市議、見守り、東V)	6名

<73名内訳>※年代別で集計

30歳代	5名	60歳代	19名
40歳代	9名	70歳代	35名
50歳代	5名	※30~50歳代：26.1%	

## 平成30年度災害ボランティアセンター協議会事業計画（案）

### 1. 目的

当会では、平成26～27年度にかけて、関係機関の協力のもと「東大和市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」を策定し、災害時に被災者のニーズを把握し、的確にボランティアが活躍できる環境整備を推進している。

しかし、災害時の活動にあたっては、日頃より多くの市民、関係機関、団体、業者等と連携を密にすることが重要であり、マニュアル策定の過程で生まれた連携を一層強化するとともに、更に多くの関係者をつながりを作っていくことが必要である。

災害時に迅速かつ円滑なセンター設置、運営が行えるよう、災害ボランティアセンター協議会（以下「協議会という。」を設置し、平常時からの連携を推進する。

### 2. 会議開催

第1回	平成30年	4月16日（月）	19:00～	※訓練反省のまとめ等
第2回	〃	7月23日（月）	〃	※研修会（図上訓練(案)）
第3回	〃	9月10日（月）	〃	※研修会（震災体験者のお話）
第4回	〃	12月17日（月）	〃	※ミニ研修会（ ）
※災害ボランティアセンター設置・運営訓練	平成31年	1月20日（日）		
第5回	平成31年	2月18日（月）	〃	※訓練反省のまとめ等

### 3. 年間目標

- 1) 災害ボランティアセンター設置・運営訓練へ、若い世代の参加拡大と周知を図る。
- 2) 自治会未組織地域への啓発や関係づくりを進める。
- 3) 災害の体験者のお話をうかがい、協議会として災害に対する意識向上を図る。

### 4. 主な取り組み

- 1) 災害・ボランティアセンター設置・運営訓練  
前年度の反省を踏まえ、新たな要素を取り入れ実施する。  
実施日：平成31年1月20日（日）予定
- 2) 災害ボランティアに関する広報全般をすすめる  
ホームページやSNSの活用を含め検討を行う。
- 3) マニュアルの点検  
訓練等を通じ適宜見直し、改定
- 4) 市内各自治会の参加、訓練への協力等  
本協議会へ市内各自治会等からの参加を増やし、適宜連携を深める。
- 5) 防災に係る各種研修、勉強会等  
関係機関と連携しながら研修会等を行う。
- 6) 災害時要配慮者への支援について、災害ボランティアセンターとして考える。

## 5. 参加団体

### 【常任メンバー】

- 1) 東大和市社会福祉協議会
- 2) 東大和市役所地域振興課市民協働係
- 3) 東大和青年会議所
- 4) 南街・桜が丘地域防災協議会
- 5) 東大和障害福祉ネットワーク
- 6) 高齢者ほっと支援センター（なんがいが代表として参加）
- 7) 障害者自立支援協議会
- 8) 湖畔地域自治会（多摩湖畔自治会、東邦自治会、湖南自治会）

### 【非常任メンバー】※必要に応じ参加、協力を求める。

- 1) 東京都社会福祉協議会
- 2) 東大和市民生委員・児童委員協議会
- 3) 老人クラブ関係者
- 4) 市役所の上記以外の部署
- 5) 市内各自治会等関係者
- 6) その他必要とされる機関等

## 6. その他

## 7. 社協（事務局）との関係について

### 1) 社協からの協議会参加

社協は協議会メンバーとして1名参加、その他事務局として2名参加する。

### 2) ボランティア・市民活動センター運営委員会との連携

本協議会との情報共有、連携をおこなう。

### 3) 事務局内の体制

社協災害対策チームを本協議会の事務局として活用する。協議会へ多くの職員が関わり、職員全体で理解を深める。

### 4) 事業継続計画について

社協は事業継続計画（BCP）を策定。それに基づいた内部訓練等を予定。また必要な備品の整備等を進める。

平成29年度福祉標語最優秀作品～やさしさの 色にそめよう この町を～

# たまボラ



2018 12  
VOL. 2018/3/31発行

発行：東大和市社会福祉協議会  
所在地：東大和市中央3-912-3  
電話：042-564-0012（代表）  
FAX：042-564-3680

東大和ボランティア・市民活動センター ～しゃぎょうのたまちゃんがお伝えする東大和のボランティア情報紙～

## いつ起こるかわからない 災害に備えて

～助けられる人から助ける人へ～



避難所支援の一環で足湯の用意を行っている様子

3月17日(土)に、**災害ボランティアセンター設置・運営訓練**をハミングホールで行いました。

東大和市社会福祉協議会では、大きな災害が発生した場合、市民・市役所・関係機関等と協働で災害ボランティアセンターを設置・運営することになっています。

今年度も、センターを設置する予定であるハミングホールを利用し、実践的な訓練を実施しました。また今回は土曜日に訓練を実施することで、より多くの方々に災害ボランティアセンターを知っていただけるようにいたしました。

市民・関係者合わせて112名の参加がありました。



# ～訓練全体の流れ～



## 災害ボランティアセンターって



↑東日本大震災の時の災害ボランティアセンターの様子です。

災害からの復興には、ボランティアの力が欠かせません。いざ災害が起きた時には市内や市外からたくさんのボランティアが応援に来てくれます。センターは、ボランティアを受け入れ、被災者の困りごとに応じるように調整していくところです。

## 午前

午前中は、災害ボランティアセンターの運営に関わるスタッフの訓練を行いました。

- ①スタッフの役割を確認
- ②被災者役からの電話相談を受ける(どんなことに困っているかなどをお伺いします。)
- ③被災者宅に訪問し、状況の確認(直接現場に行きボランティアが何人必要か、困っていることなどの再確認をする)
- ④訪問等で得た情報をまとめる



←被災者役からの相談の電話を受けている様子。



被災者宅に行き聞き取りをしている様子。→



## 午後



←受付をしている様子



マッチングの様子→



←避難所に見立てた場所で、避難所支援の内容を体験してもらいました。

午後からは、市民の方々もボランティア役として参加していただき、災害ボランティアセンターの、災害時の役割等について学んでいただきました。

- ①スタッフ役がボランティアの受付が行えるようにセッティング
- ②ボランティア受付
- ③オリエンテーション  
(注意事項等を伝える)
- ④マッチング(活動したい場所を選ぶ)
- ⑤送り出し(活動先の細かい状況聞き、支援用資機材を持って被災者宅を訪問)
- ⑥ボランティアが現場で活動
- ⑦反省会



## 今回の訓練の特徴



### 子育て世代にスポットを!

設置・運営訓練は様々な状況の被災者を想定し、よりリアリティーのある訓練にしています。

今回の被災者役には、妊娠をしており、子どもがいる家庭を設定し、子育て世代の避難所での生活のしづらさや、妊婦さんの大変さなどを実感していただけるような内容にしました。

また、子育て世代の内容を設けることで、同世代の若い方々にも関心を持っていただけるようにしました。



←妊婦さんの悩みなどもボランティア役が聞いてくれています。

部屋の片付けから子ども遊び相手まで、様々な活動をしていただきました。→



### 高層住宅を想定

高層住宅に住んでいる高齢者を想定した支援内容もありました。

東大和市内には高層住宅が多くあります。災害でエレベーターが止まってしまった場合、階段での昇降となり高齢者など多くの人に様々な面で支障が生じることが想定されます。

今回は、実際に階段を使用しながらボランティア活動を体験していただき、エレベーターが使えないことで発生する様々な支障を実感してもらいました。



←8階から家具を降ろしてもらいました。



←実際に住まわれているご自宅をお借りし、リアルな現場を再現しました。

# シリーズきらっ!!ボランティア

## 災害ボランティアセンター設置・運営訓練編

Vol.11

今回は、災害ボランティアセンターの訓練に参加していただいた二小PTA本部の方々とJC(青年会議所)の方に感想を伺いました。

若い子育て世代の方々が、今回の訓練で何を学び感じたのかご注目下さい。



### 【二小PTA本部の皆さん】

○避難所支援に行くという設定で参加させていただきました。高齢者等の起き上がるのが困難な方への介助の仕方、ホットタオル作り、足湯体験、毛布を使ったガウンの作り方など、役に立つことを学ばせて頂き、とても有意義な時間でした。また、災害時にはコミュニケーションが大切だということを実感しました。

今回の訓練は若い方が少なかったので、もう少し若い方にも参加してもらえたら、さらに有意義になるのかなと思いました。

○子連れで参加させて頂きました。足湯体験、ホットタオル作り、毛布の巻き方など実体験をし、楽しみながら学ぶ事ができました。子どもも喜んで参加でき、家に帰宅してからも家族に話をしていました。4歳の娘が興味を持ってくれた事がとても嬉しく大人だけでなく、子どもも一緒に学べる場だったようです。

○毛布ガウンや足湯、ホットタオルのやり方を教えてもらいとても勉強になりました。

毛布ガウンは災害用の薄い毛布なのに暖かく簡単でとても役に立つ方法だと思いました。足湯は少ない水で温まる方法を教えてもらい、また段ボールとビニール袋でできるという事で、簡単で実用的だと思いました。また被災者とのコミュニケーションを図るのに役に立っているという事で、足湯の重要性も感じました。今回参加して被災者の不安や心細さを聞いてあげるのもボランティアの仕事という話を聞いて、心のケアが大事だと思いました。

○初めて災害ボランティアの訓練に参加させていただきました。ボランティアセンターのスタッフの方の動きや、ボランティアの方どのように被災者の元へ駆けつけるのか、ボランティアセンターの運営の仕組みを知ることができました。想定として避難所への支援をするチームに参加しましたが、実際の時は多くの被災者が避難所生活をされていて一人一人希望される支援も違って、私に何ができるのだろうと不安に思いました。ボランティアをするには、普段からの心構えや知識が必要なんだと実感しました。

今回は段ボールとビニール袋を使って足湯をしたり、毛布ガウンの着方など、いろいろな工夫を教えてもらうことができ、またこのような機会に実際にやってみることが大切なのだと思います。今回のような訓練はとても大事だと思います。幅広い年齢層の人たちに参加してもらいたいですね。特に若い人達(高校生や大学生)にも呼びかけてボランティア役として参加してほしいと思いました。



↑PTAの方々が参加した  
避難所支援の様子



○初めて災害ボランティアの訓練に参加しました。参加するまで、自分が災害時にボランティア側に立つということが想像できなかったのですが、避難所でお年寄りが自分の体がなかなか自由に動かせないことから、人に迷惑をかけまいとトイレにも行かず食べ物や飲み物も受け取らずにいることがあるという話を聞き、とても悲しい気持ちになりました。そこで、少し声をかけ、起き上がりを手伝ってあげることやお話を聞いてあげることがボランティアになるということを知りました。特別なことが出来なくても、私でもできることがあるのだと思い意識が変わりました。災害時は誰もが不安だけれど、人と人との触れ合いが災害を乗り越える力になるということに改めて感じました。起き上がるのが困難な方への介助の仕方、また毛布ガウンや段ボール足湯や、ホットタオルなど様々なことを知ることができ、とても勉強になりました。



○参加する前までは、自分のことで精一杯になるであろう自分がボランティアの方々と一緒に参加できない…と不安でしたが、いざ始めると毛布ガウンの作り方やホットタオルの作り方、高齢者の方のおこし方など、大変役に立つ知識をたくさん教えていただき助かりました。また災害に対する危機意識も高まりましたので良い経験になりました。ありがとうございました。3. 11から7年経ってしまい、自分の意識もだいぶくなってきているな…と再確認しました。

○ホットタオル、毛布ガウン、段ボール足湯など初めて知ることばかり教えていただき、とても有意義な時間を過ごせました。震災以降、各地で災害がおきていて、いつこの地域に大きな災害が起きてもおかしくないと思うようになりました。今回の訓練のように自分の身に置き換えて考えられる機会があるのはとてもありがたいと思いました。

**【東大和JC(青年会議所) 住吉 良太さん】**

3月17日(土)ハミングホールにて行なわれた災害ボランティアセンター設置・運営訓練にスタッフ役として参加させて頂きました。午前中は被災者の方からの電話受付、また実際に被災者のお宅へ訪問して状況の聞き取りを行った他、その情報の整理を行ないました。午後は、被災者を訪問するボランティアの方に整理した情報を説明して送り出しを行ないました。

訓練を通じて強く感じたのは情報共有の難しさです。聞き取った情報を自分ではなく、送り出し係がボランティアの方に伝える訳ですから、それを踏まえて聞き取りや情報の整理をしなければなりません。このあたりは有事の際にも丁寧にする必要性を感じました。また、今回の訓練では「現場でスカイプを使い、現場の状況をリアルタイムで本部と共有する」訓練も行いましたが、現場で接続が上手く行かずに困るという場面がありました。災害に関わるボランティアと言うと、炊き出しや力仕事のイメージが強いですが、情報機器やネットワークに関わる知識も災害時には求められる時代になった事を痛感する出来事でした。

下は4歳から上は90歳までと非常に幅広い年代の参加者が集まり、非常に充実した訓練でしたが、20代、30代の参加者が少なかった事は残念でした。情報機器の取り扱いにも長けた若い世代が参加する事で更に充実した訓練になると感じます。「タブレットやスマートフォンの操作に長けている」、「Wi-Fiやネットワークへの接続方法が分かる」、本人は大した事がないと思っけていても、それは災害時に役立つスキルです。来年以降は、そんな方達にも是非とも参加して頂ければと思います。



災害時のボランティアの役割を皆さんに理解して頂き今回の訓練の目的が達成できました。感想にも書いてあるように、もっと多くの若い世代に参加して頂けるように働きかけたいです。